

第7回 天文教育懇談会 (記録)

昭和 48 年 10 月 11 日 (木) 午後 1 時 30 分より、日本天文学会の好意により、また、香川大学三沢教授の世話で、香川大学同窓会館において、「天文教育懇談会」(第7回)を催し、午後 5 時頃まで会談した。今回は、主題を「一般教育における天文教育」に置いたためか、参会者 12 名は大学に関係のある方々だけであった。なお、従来、この会の推進役を務めてきた佐藤明達・平瀬志富両氏が共に都合で出席できなかったため、臨時の世話掛りに準備・連絡などいたらなかった点も多く、天文学会の幹事にも御迷惑をかけたこと、また、一般の関心のある方々への配慮も足りなかったことなど、紙面を借りておわびします。

I. 大学の一般教育における天文教育

大学の教養部または教養学部における「天文教育」の現状報告があり、天文学関係の専任教官がいるのは、出席者の関係している 9 大学のうちでは東京大学と広島大学のみで、他は理学部または教育学部の専任教官の兼務或は非常勤講師により行われている現状が明らかになり、全般的に言えば、一般教育における天文教育が疎外視されているとの感を深くした。

一般教育は、4 年間のどこでも聴講できる香川大学の場合を除き、普通は 1 年乃至 2 年間 (1 年半のところも多い) の教養課程で行われ、多くは理科向けと文科向けに分けて「天文学」の講義が行われる配慮がなされており、理科系の場合にのみ実験 (実習) を課しているところ (東京大、広島大、香川大など) もあるが、実験実習に割当て得る時間数は 3~5 週間の不十分なものであることなどが明らかになった。講義は、理科系の場合、1 クラス 50 名程度に押さえて数回開講し、文科系に対しては 100~200 名の多人数を相手に講義が行われている例が多く、特に文科系に対する場合には一様に講義内容などの取扱いや方法に困難があるようで、一例として天文学史 (科学史) を取り入れた経験談なども話された。また、天文学は科学の方法を知る上で甚だ有効であると思われるから、一般教育の本旨に則り、「天文教育」がもっと盛んに行われるべきではないかなど話も出たが、それには専任教官数の絶対数が不足している現状が、また、問題になってくるように思われる。

II. 教員養成学部における天文教育

一般教育の延長線上にあると思われる教員養成学部における「天文教育」についても話合ったが、小・中・高

の教員養成に当り、これら課程の理科教科における教材より見て、天文学の基礎素養が絶対的に必要であると思われるにも拘わらず、天文学専攻の教官が各教員養成学部にも必ずしも在職していないという事実は、天文教育の軽視という外はない。全般的に、地学の教官数は他の物・化・生の教官数に較べて少く、その地学の中でも天文学専攻の専任教官の在任するところは更に少い。一例をあげると、中国・四国の両地区併せて 9 教育学部を見渡して、天文学専攻教官の在職するのは香川大学だけである。多くは非常勤や兼担で処理されているようであるが、これでは責任ある教育はできない。小学校の場合、教員は全教科を担当せねばならず、事実、天文知識の乏しい現職教員が間違ったことを教えていた事例のあることなども指摘された。

その他、天文教育 (講義および実験実習) の実施状況についても話合った。その際、特設理科 (高校理科教員の養成課程) のあるなしによって事情は多少異なるが、設備および教官数の不足、従って教官個人の負担過重になっていることなどが明らかになった。

III. 天文学教育の内容

一般教養としての天文教育の授業内容について、文科系学生の場合に対する問題の一端については前にも触れたが、単位修得の問題もあり、それぞれに苦勞されている話題がはずみ、実験実習の課題内容に話が及んだ折、大脇教授より IAU の commission 46 の要請で“laboratory exercise”の題目調査を依頼されているということで、その協力を求められた。

以上の懇談会の話題内容に省みて、我が国の大学一般における天文教育は、一言で言えば、貧しいの評語につきる現状であると言わねばならない。天文学関係の各教官は研究に教育に、各部署により、それぞれ苦心されている姿が浮ぼりされたが、この際、横の連絡を密にし、天文教育の振興促進のためには、天文学会の方へも意見を具申する必要があるかと思われる。それに先立ち、一般教育および教員養成の場における天文教育の実情調査をする必要が痛感されるにいたったので、天文学実験実習課題の調査も含め、出席者全員の要望により、大阪教育大学でこの調査を引受けて実施することを申合せて座談会を終った。(追記: 11 月中旬に国立大学の教養部および教育学部に対しアンケートを発送し、目下、その回答が集りつつあり、結果の集計は追って発表の予定。)(48.12.15) (清永嘉一)